

○ 本校の概要

(生徒の様子)・校内に活気があり、様々なことに一生懸命に取り組む姿勢がある。素直な気持ちの生徒が多い。・学習に対する態度は良いが、家庭学習や復習については個人差がある。・行事に対する思い入れが熱い生徒が多く、協力して一生懸命に取り組む生徒が多い。
(地域の様子)・大規模な繁華街に隣接しているが、本校の地域は静かで大変落ち着いた住宅地である。・地元愛が強く地域力がとても高い。・保護者、地域の方々には学校に理解を示し、大変協力的で様々な支援をいただいている。

○ 自己評価及び学校関係者評価の結果の概要と改善策

大項目	目標	取組内容	取組指標	取組評価	目標に対する成果指標	成果評価	これまでの取組 今後の改善策	学校関係者記入欄	
								評価	人数
プラン1 未来社会を創造的に生きる子供の育成	コミュニケーション能力、情報活用能力、ともに生きる力等、これからの社会の変化にしっかりと対応する子どもの力と自信を身に付けます。	外国語教育指導員を効果的に活用し、外国の方々のコミュニケーション能力の育成を図っている。	4:「おおむねできた」と全教員が回答した。 3:80%以上が回答した。 2:60%以上が回答した。 1:60%未満であった。	4	アンケート調査を実施)	4:	88% (これまでの取り組み) ・各教科でICT機器を活用し、学ぶ意欲の伸長を目指すことが出来た。 ・英語授業ではALTを中心に、コミュニケーション能力の育成を図った。	A 6 B 1 C D 1	・教科に隔たりなくICT機器等を積極的に活用し、授業を工夫し学力向上に努めてほしい。 ・今年度は学校の状況が見えにくく、正しい評価ができない。 ・コロナ禍の中、教職員の方々のご努力に敬意を抱くものです。 ・学校支援の機会に垣間見えた限られた経験からですが、先生方が生徒の立場から、ICT活用に取り込まれています。
		理論的、科学的な思考力の育成を旨とし、「おたのみのづくり」を生かした体験活動や理数授業等を実施する。	4:全教員が行った。 3:80%以上の教員が行った。 2:60%以上の教員が行った。 1:60%未満であった。	2	4:コミュニケーション能力、情報活用能力に関する肯定的な回答が80%以上。	3:	・(今後の改善策) ・教科に偏りなく、全教員がICT機器を取り扱う授業が実施できるよう研修・研究に努める。		
		学力の定着と学ぶ意欲の伸長を目指し、ICT機器を活用した授業を実施する。	4:設置教室を使用する全正規教員が週1回以上活用した。 3:80%以上の正規教員が週1回以上活用した。 2:60%以上の正規教員が週1回以上活用した。 1:60%未満であった。	4	3:コミュニケーション能力、情報活用能力に関する肯定的な回答が70%以上。	4:	・他者理解に努めるよう授業の工夫を行い、新しい考えや発想を導くための工夫を継続する。		
		他者の人権を尊重する人権教育の推進を目指し、人権教育資料等を活用した授業を実施する。	4:対象となる全学級(全教員)で行った。 3:80%以上で行った。 2:60%以上で行った。 1:60%未満であった。	3	2:コミュニケーション能力、情報活用能力に関する肯定的な回答が60%以上。	1:			
プラン2 学力の向上	児童・生徒一人ひとりの学ぶ意欲を高め、確かな学力を定着させます。	学習カルテを基に児童・生徒と面談し、一人ひとりの学習のつまずきや学習方法について、指導する。	4:対象となる全学級(全教員)で行った。 3:80%以上で行った。 2:60%以上で行った。 1:60%未満であった。	3	年度末に生徒対象の学習に関するアンケート調査を実施)	4:	78% (これまでの取り組み) ・学習指導講師による放課後補習、土曜日補習を実施した。 ・授業改善推進プランを作成し、プランに基づき授業を実施した。	A 7 B 3 C D 1	・個々の能力に合わせて指導していくのは大変です。学習効果測定の結果分析し放課後・土曜日補習等に取り組む、一人一人の学力意識を高めていると思います。 ・志茂田中学校での好んでいる生徒が依然として多いのが、挨拶、笑顔からうかがえます。 ・コロナ禍での学力低下が問題になっています。
		算数・数学到達度をステップ学習チェックシートで児童・生徒、保護者に知らせる。	4:学期に2~3回知らせた。 3:学期毎に知らせた。 2:年度間に1回は知らせた。 1:お知らせできなかった。	3	・学習に対する意欲・関心に関する質問項目において、肯定的な回答が85%以上。	3:	・(今後の改善策) ・学習のつまずきをケアするため、学習指導講師と情報共有を密にし、課題を個々の学習状況に応じた学習課題を設定する。		
		学習指導講師等による算数・数学・英語の補習を実施する。	4:対象児童・生徒への出席を全教員が働きかけた。 3:80%以上の教員が働きかけた。 2:60%以上の教員が働きかけた。 1:60%以下の教員が働きかけた。	3	2:学習に対する意欲・関心に関する質問項目において、肯定的な回答が75%以上。	2:	・学習効果測定の結果を分析し、授業改善推進プランを随時見直し、現状に即したプラン作成を実施する。		
		授業改善推進プランを、授業に生かす。	4:「おおむねできた」と全教員が回答した。 3:80%以上が回答した。 2:60%以上が回答した。 1:60%未満であった。	3	1:学習に対する意欲・関心に関する質問項目において、肯定的な回答が60%未満。	1:			
プラン3 豊かな心の育成	子ども一人ひとりの正義感や自己肯定感、自己有用感などを高めるとともに、自他の生命を尊重するなど、未来への希望に満ちた豊かな心をばぐみまします。	小中一貫による教育の視点に立った生活指導の充実により、社会のルールや学校のきまりなどを守ろうとする意識を高める。	4:全教員が行った。 3:80%以上の教員が行った。 2:60%以上の教員が行った。 1:60%未満であった。	3	年度末に生徒対象の生活に関するアンケート調査を実施)	4:	83% (これまでの取り組み) ・月に一度、「いじめアンケート」を実施し、未然防止を含めた人権尊重の意識向上を高めた。 ・週1回の生活指導部会を設立し、情報共有を行い、組織的な対応に努めた。	A 6 B 1 C D 1	・大人が疲弊している中、学校が拠り所になれたら良い。家庭も大切ですが、学校での友人や先生方との関係が重要と考えます。
		道徳教育推進教師を講師とした研修や、国、都及び区の資料を活用した授業等を行う等道徳指導充実のための取組を行う。	4:学期に2~3回(年間6回)以上行った。 3:学期に1回(年間3回)以上行った。 2:年度間に1回以上行った。 1:実施しなかった。	3	4:自己肯定感に関する質問項目において、肯定的な回答が85%以上。	3:	・各関係機関との連携を深め、ケース会議を設定し、学校いじめ防止基本方針に沿って重要課題への取り組みを実施した。		
		学校生活調査(メンタルヘルスチェック)の結果よりストレス症状のみられる児童・生徒に対して組織的に対応する。	4:「組織的対応ができた」と全教員が回答した。 3:80%以上の教員が回答した。 2:60%以上の教員が回答した。 1:60%未満であった。	3	3:自己肯定感に関する質問項目において、肯定的な回答が75%以上。	2:	・問題行動課題については、未然防止を第一に更なる啓発取り組みを行う。 ・小中一貫教育生活スタンダードの取り組みをより強化し、小学校と連携を図り、9年間を見通した指導を行う。		
		学校いじめ防止基本方針に沿って、いじめの未然防止、早期発見等のための取組を実施する。	4:「組織的対応ができた」と全教員が回答した。 3:80%以上の教員が回答した。 2:60%以上の教員が回答した。 1:60%未満であった。	3	2:自己肯定感に関する質問項目において、肯定的な回答が60%以上。	1:	・学校生活調査の結果を分析し、ストレス症状を把握し、適切な機関と連携を図り対応する。		
プラン4 体力の向上と健康の増進	スポーツに親しむ心の育成や、運動習慣の定着による体力の向上など、生涯にわたって健康増進を図る意識の向上をめざします。	「早寝・早起き・朝ごはん」月間の取組等を通して、児童・生徒や保護者に対し、望ましい生活習慣についての意識啓発を行う。	4:全教員で行った。 3:80%以上の教員で行った。 2:60%以上の教員で行った。 1:60%未満であった。	3	年度末に生徒対象の生活に関するアンケート調査を実施)	4:	88% (これまでの取り組み) ・給食指導及び教科等における指導を通して、食生活の充実をねらいとした「食育」を推進することができた。 ・コロナ禍の制限がある中でも工夫し、様々な機会をとおして運動習慣の確立を推進することが出来た。	A 7 B 3 C D 1	・コロナ禍での先生方の尽力に感謝しています。 ・コロナ禍、運動習慣・生活リズム(早寝・早起き・朝ご飯)は家庭と学校とが一体となり取り組むという事は非常に大切です。 ・受験直結の主要科目の勉強がさぞ大変と思いますが、運動・スポーツとの両立を志向する生徒がたくさんいるようで素晴らしいと感じます。
		給食指導及び教科等における指導を通して、食生活の充実・改善をねらいとした「食育」を推進する。	4:全教員で行った。 3:80%以上の教員で行った。 2:60%以上の教員で行った。 1:60%未満であった。	3	2:健康・体力にの保持・増進に関する項目において、肯定的な回答が70%以上。	4:	・オリパラ教育に関して、今年度はコロナ禍の関係で実施が中止されることが多かった。来年度、オリパラの開催に向けて計画を進めていく。		
		体育的行事、部活動、休み時間など様々な機会を通して運動習慣の確立を推進する。	4:全教員で行った。 3:80%以上の教員で行った。 2:60%以上の教員で行った。 1:60%未満であった。	3	1:健康・体力にの保持・増進に関する項目において、肯定的な回答が50%未満。	1:			
		オリパラ教育の充実を図る	4:全学級で行った。 3:80%以上の学級で行った。 2:60%以上の学級で行った。 1:取り組んだ学級は60%未満であった。	2					
プラン5 魅力ある教育環境づくり	児童・生徒が安全・安心に学校生活を送るために、教員の指導力向上と良質な教育環境をつくりまします。	授業公開日の授業評価を、その後の授業改善に生かす。	4:「おおむねできた」と全教員が回答した。 3:80%以上の教員が回答した。 2:60%以上の教員が回答した。 1:60%未満であった。	2	年度末に生徒対象の学習に関するアンケート調査を実施)	4:	69% (これまでの取り組み) ・コロナ禍で校内研修が制限されたが、主任教師の授業見習いを積極的にに行い、校内OJTの推進に努めることが出来た。 ・ICT機器の取り扱いについての講習会に多く参加し、リモート授業やリモート会議などの方法について多くのことを学ぶことができた。	A 7 B 3 C D 1	・生徒が安全、安心に学校生活が送るために教職員も指導力向上に努めて、ICT機器等の取り扱い・リモート授業・会議等の研修で得た知識を校内研修で充実させチーム志茂田として、常に報連相を忘れずに対応して下さる事をお願いします。 ・この項目のみ成果評価が「2(69%)」であることが気になった。 ・保護者と地域は、先生方、職員さん皆様が一丸となって(=チーム志茂田中として)お力を発揮されることを望んでおります。引き続きよろしくをお願いします。
		授業改善セミナー等の研修成果を生かし、主任教師が助言・支援を行う校内研修等を実施しOJTを充実させる。	4:学期に2~3回(年間6回)以上行った。 3:学期に1回(年間3回)以上行った。 2:年度間に1回以上行った。 1:実施しなかった。	2	3:授業内容の理解度に関する質問項目において、肯定的な回答が80%以上。	3:	・(今後の改善策) ・ICT研修を更に充実させる。 ・特別支援教育について課題を整理し組織的な対応ができるように情報共有に努める。		
		各種発表会等の研究・研修の成果を、自身の授業改善に生かす。	4:「おおむねできた」と全教員が回答した。 3:80%以上の教員が回答した。 2:60%以上の教員が回答した。 1:60%未満であった。	2	2:授業内容の理解度に関する質問項目において、肯定的な回答が70%以上。	2:			
		校内委員会等を確実に実施し、学校における特別支援教育を推進する。	4:月1回以上行った。 3:学期に2~3回行った。 2:学期1回以上行った。 1:実施しなかった。	3	1:授業内容の理解度に関する質問項目において、肯定的な回答が50%未満。	1:			
プラン6 学校・家庭・地域が担う役割などを明確にし、地域に開かれた教育の実現を目指します。また、相互の連携を深め、子どもを育てる仕組みを作ります。	学校・家庭・地域が担う役割などを明確にし、地域に開かれた教育の実現を目指します。また、相互の連携を深め、子どもを育てる仕組みを作ります。	教育目標・学校経営方針・学校評価等の基本情報、児童・生徒の活動情報等をホームページ等で公開及び更新することにより、積極的に情報を発信する。	4:月1回以上更新した。 3:学期に2~3回更新した。 2:学期1回以上更新した。 1:更新しなかった。	3	年度末に保護者対象のアンケート調査を実施)	4:	83% (これまでの取り組み) ・学年便り、学校便りを通して学校からの情報発信を行った。 ・コロナ禍で学校地域支援本部と連携することに制限があるなかで、漢字検定や英語検定については連携した取り組みができた。	A 6 B 1 C D 1	・ホームページ更新により一層のご尽力お願いいたします。 ・小中一貫教育の中で、中学校(蒲田西地区)小学校(六郷地区)に分かれている中、学校だより等を町会に配布される等、積極的な情報発信の姿勢は評価に値する。 ・学校便りの配布等、積極的アクションを持続されているのはご立派です。また一昨年の台風避難所の提供には多くの住民が感謝の気持ちを忘れないうと思います。(コロナ禍でも備えにご留意ください。) ・生徒の学校外での行動など、見守っていきたい。
		地域教育連絡協議会において、児童・生徒の変容等の具体的な資料を作成して、評価に必要な学校の情報を適切に提供し、適正な評価を受けるよう努める。	4:毎回情報を提供した。 3:おおむね情報を提供した。 2:あまり情報を提供しなかった。 1:情報を提供しなかった。	3	3:学校に対する満足度に関する質問項目において、肯定的な回答が85%以上。	3:	・(今後の改善策) ・学校からの情報発信については、ホームページやメールの活用について強化し、情報の共有に努める。 ・家庭学習の取り組み状況を把握し、家庭学習の重要性の認識に努める。		
		学校支援地域本部と連携するなどして、地域力を生かした特色ある教育活動を実施する。	4:学期に2~3回行った。 3:学期1回以上行った。 2:年1回以上行った。 1:実施しなかった。	2	2:学校に対する満足度に関する質問項目において、肯定的な回答が60%以上。	2:			
		家庭学習の取組を強化していくために、様々な場面で生徒と保護者に具体的に呼びかけ、意識を高めていく。	4:全学級で行った。 3:80%以上の学級で行った。 2:60%以上の学級で行った。 1:取り組んだ学級は60%未満であった。	2	1:学校に対する満足度に関する質問項目において、肯定的な回答が60%未満。	1:			

○「成果評価」は、各校が4段階で定めた成果指標によって行う。

○記入にあたっては、各学校で取り組んでいる自己評価項目に照らし、該当する項目を取りまとめて行う。

○学校関係者評価の「評価」は、A:自己評価は適切である B:自己評価はおおむね適切である C:自己評価は適切ではない D:評価は不可能である の4点について、評価した人数を記載する。